

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	A-131	20-025 滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
<b>題名 (原題/訳)</b>		
<p>The Role of Adverse Childhood Experiences on Perinatal Substance Use Behaviour in KwaZulu-Natal Province, South Africa</p> <p>南アフリカのクワズールー・ナタール州における周産期の薬物使用行動に及ぼす逆境的小児期体験 (ACE) の役割</p>		
<b>執筆者</b>		
Bhengu BS, Tomita A, Mashaphu S, Paruk S.		
<b>掲載誌</b>		
AIDS Behav. 2020 Jun;24(6):1643-1652. doi: 10.1007/s10461-019-02661-y.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
逆境的小児期体験、薬物使用、妊娠、HIV、南アフリカ		31542877
<b>要 旨</b>		
<b>目的：</b>		
<p>南アフリカは妊娠中の薬物使用や HIV の有病率が高いことが公衆衛生上の課題である。HIV の高リスクとなる性行動と逆境的小児期体験 (ACE) との関連については広く調査がされている。ACE が妊娠中の薬物使用や早産に及ぼす影響については不明であり、両者の関連を調査する。</p>		
<b>方法：</b>		
<p>南アフリカのクワズールーナタール州の一般的な病院にて、産後 1 週間以内の 223 人の女性に面接を行い、周産期の薬物使用 (WHO の ASSIST 質問票) や ACE (WHO-ACE I 質問表) に関して調査を行った。多変量ロジスティック回帰分析を用いて、ACE および HIV 感染状況による薬物使用、早産の調整オッズ比を算出した。</p>		
<b>結果：</b>		
<p>周産期におけるアルコール使用は 12.11% (n=27)、タバコ使用は 8.07% (n=18) であり、早産の有病率は 8.97% (n=20) であった。その他の薬物利用は認められなかった。ACE の増加は社会経済要因を調整後も周産期アルコール使用 (調整オッズ比: aOR = 1.45、95% CI 1.22-1.72)、タバコ使用 (aOR = 1.56、95% CI 1.23-1.97)、および早産 (aOR = 1.21、95% CI 1.03-1.43) と有意に関連していることが示された。また HIV の有無 (HIV 陽性率は 47.09%) で調整したところ、ウイルス量の抑制ができていない群で早産率が低かった (aOR = 0.06、95% CI : 0.01-0.24)。</p>		
<b>結論：</b>		
<p>HIV 流行地域では妊娠中の飲酒や喫煙、HIV 曝露、ウイルス量抑制のための抗レトロウイルス治療順守などのリスク行動を軽減させる戦略として、妊婦の ACE スクリーニング実施が効果的である可能性が示された。</p>		